

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		げんきのこ					公表日		年 月 日	
		チェック項目	(はい)	(いいえ)	工夫している点	課題や改善すべき点				
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	3		動きのある児童と、安静を要する医療的ケア児とでスペースを分けて環境調整を行い、安全かつ安心して過ごせるように配慮している。室内の導線にも留意し、必要に応じてマットや静養スペースを設けるなどの工夫をしている。	現状、ベッドなどの安静設備が常設されておらず、横になって過ごす必要がある児童にはマット等に対応しているのが実情である。また、スペース全体が限られているため、利用定員に対して十分な活動・静養スペースを同時に確保することが難しい場面もある。今後は、児童の状態や活動内容に応じた設備や空間の見直しを継続的に行っていく必要がある。				
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	1	2	基準を満たす職員体制を整え、児童の状態や活動に応じて職員間で連携・協力し対応している。	医療的ケア児や支援が重なる日は、基準以上の人員が必要と感じる場面もあり、今後の体制強化が課題である。				
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	3		ゾーニングや視覚支援により構造化された環境を整備し、バリアフリーや静養・吸引スペースなどの配慮も行っている。今後は、ベッドの設置など安静に過ごせる設備の導入が課題である。					
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	2	1	清掃や整理整頓を日々徹底し、清潔で落ち着いた空間を維持している。児童の活動や特性に応じて、遊び・学び・静養のスペースを分けて配置し、心地よく過ごせる環境づくりに努めている。					
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	2	1	児童の特性や状態に応じて、静かな場所や個別スペースで過ごせる環境を整えており、必要に応じて柔軟に対応している。					
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	3			一部の職員が中心となって取り組んでおり、情報共有や振り返りの場はあるが、全職員が主体的に関わるには課題が残る。今後は、日々の業務の中で気づきを共有しやすい仕組みづくりが必要である。				
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3		保護者向け評価表を通じて意向を把握し、職員間で共有・話し合いを行い、業務改善に活かしている。					
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	2	1	定期的な会議や日々のミーティングで職員の意見を聞く機会を設けており、業務改善に反映している。					
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	2	1		現在、第三者による外部評価は実施していないが、今後の業務改善の一環として導入を検討していきたい。				
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	2	1	外部研修の受講や、法人内での研修開催を通じて、職員が学びを深める機会を確保している。					
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	3		児童の特性や発達段階に応じて支援プログラムを適切に作成し、個別支援計画などを通じて保護者にも共有・公表している。					
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	3			面談や日々の様子、関係機関との連携を通じてアセスメントを行い、児童と保護者のニーズを把握した上で、適切な支援計画を作成している。				
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	3		児童発達支援管理責任者を中心に、関わる職員全員で情報を共有し、共通理解のもと児童の最善の利益を考慮して支援計画を検討している。					
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	3		放課後等デイサービス計画は職員間で共有され、日々の支援に計画内容が反映されるよう取り組んでいる。					

適切な支援の提供	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	3		標準化されたチェックリストや行動観察を通じて、フォーマル・インフォーマルの両面から児童の適応行動の状況を把握し、支援に活かしている。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	3		児童に必要な項目と具体的な支援内容を適切に計画へ反映している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	3		児童の発達段階や興味・関心を踏まえ、職員間で連携しながらチームで活動プログラムを立案している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	3		活動が固定化しないよう、週ごとに内容を変えるなどの工夫を行い、児童の興味や発達に応じた多様なプログラムを提供している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	3		児童一人ひとりの状態や特性に応じて、個別活動と集団活動を適切に組み合わせた支援計画を作成し、柔軟に対応している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	3		支援開始前にカンファレンスを行い、その日の支援内容や役割分担を確認し、職員間で連携して支援にあたっている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	3		支援終了後に気づきや課題を職員間で共有している。実施が難しい場合でも、次回利用前に確認・共有する体制を整えている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	3		HUGを活用し、日々の支援記録を徹底して行い、支援内容の振り返りや検証・改善に役立てている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	3		定期的なモニタリングを通じて、児童の変化やニーズを把握し、必要に応じて計画の見直しを適切に行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	3		「4つの基本活動（健康・生活、運動・感覚、認知・行動、言語・コミュニケーション）」を複数組み合わせ、児童の発達や特性に応じた支援を行っている。	
関係機関や保護者との連携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	3		視覚支援を取り入れ、こどもが活動や関わりを自己選択できるよう工夫し、自己決定の力を育てる支援を行っている。	
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	3		こどもの状況をよく理解している職員が、可能な限りサービス担当者会議や関係機関の会議に参加し、情報共有と連携を図っている。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	3		関係機関と連携できる体制は整えているが、実際の連携が十分に機能していない場面もあり、今後さらに連携強化が必要である。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	3		学校との情報共有や連絡調整を適切に行っており、会議等があれば積極的に参加して連携を図っている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	3		就学前の利用機関との情報共有が必要な場合は、スクラム等を活用して相互理解に努めている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	3		移行対象の児童はまだいないが、移行時の支援内容等の情報提供に備え、共有シートを活用した情報提供体制を整えている。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	3		地域の児童発達支援センターとの連携をできる限り図り、必要に応じてスーパーバイズや助言、研修を受ける機会を設けている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	2	1	放課後児童クラブ等との直接的な交流は少ないが、地域のイベントへの参加や、近隣の公園・店舗での挨拶などを通じて、地域の方々との交流の機会を持っている。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	2	1	自立支援協議会等へ積極的に参加し、地域の支援体制の構築や情報共有に努めている。	

	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	3		日頃から保護者とこどもの状況について情報共有を行い、発達の様子や課題について共通理解を持つよう努めている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3		家族支援として研修の実施はできていないが、日頃から個別の相談対応や情報提供を行い、保護者の不安や困りごとに寄り添うよう努めている。	
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	3		契約時や面談時に、運営規程や支援内容、利用者負担について丁寧に説明しています。	内容によっては時間や状況を考慮し、一部を簡略化することがあります。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	3		保護者の意向を面談等で丁寧に確認し、こどもの様子からも意思をくみ取るよう努めている。	保護者の意向が中心になりがちで、こどもの意思を十分に反映しきれていない。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	3		対面での説明が難しい場合は電話で説明し、計画書を事前にお渡ししてご確認いただいている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	3		日々の送迎時やLINEを通じて、気軽に相談しやすい関係づくりを心がけている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。		3		今後は小規模な集まりや情報共有の機会を検討していきたい。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	3		苦情受付方法については契約時に説明し保護者にも周知している。	苦情が表面化しにくい可能性もあるため、引き続き相談しやすい雰囲気づくりや周知方法の工夫が必要。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	3		活動内容の詳細もアプリで伝え、日々の連絡はLINEを活用し迅速な情報発信に努めている。	定期的な通信発行や多様な情報発信手段の活用がまだ十分でないため、発信内容の充実を検討している。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	3		個人情報保護の重要性を認識し、取り扱いルールを遵守している。	さらなる情報漏洩防止のため、定期的な職員研修や見直しを強化していきたい。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	3		わかりやすい言葉や表現で説明するよう努めている。	
非常時等の対応	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3			地域住民を招いた交流イベントの企画・実施が未着手のため、今後積極的に検討したい。
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	3		発生を想定した訓練を定期的の実施し、実践的な対応力向上に努めている。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	3		業務継続計画（BCP）を策定し、非常災害に備えて定期的に避難訓練などを実施している。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	3		●利用開始時に服薬やてんかん発作の有無については必ず確認し、支援に活かしている。 ●情報は定期的に更新し、職員間で共有している。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	3		現在、医師の指示書が必要な食物アレルギーを持つ児童はいないが、該当があった場合には速やかに対応できる体制を整えている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	3		職員間で情報を共有し、日常的な安全確認も徹底している。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	3		●契約時や面談時に、安全計画に基づく対応内容について家族へ説明し、周知と確認を行っている。 ●緊急時の連絡体制や対応方法についても共有し、連携が取れるよう努めている。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	3		再発防止に向けて職員間で意見交換を行い、改善策を実施している。	

	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	3		虐待防止に関する職員研修を実施し、適切な対応が取れるよう体制を整えている。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	3		身体拘束が必要と判断される場合は、保護者に十分な説明を行い、同意書を取得した上で対応している。	